寛次郎さん、
なんで
階段の手すりを
数珠に
したんですか？

眼で聴き、耳で視る

Listening with Eyes and Looking with Ears

中村裕太が手さぐる河井寛次郎

NAKAMURA Yuta feels his way to KAWAI Kanjiro

感覚をひらく―― 新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業
Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs
エデュケーショナル・スタディズ 03
Educational Studies 03

京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
2022年3月18日（金）— 5月15日（日）

休館日：月曜日　※ただし5月2日（月）は開館
開館時間：9時30分—17時　※ただし金・土曜日は20時まで開館（入館は閉館の30分前まで）
主催：京都国立近代美術館　特別協力：河井寛次郎記念館

感覚をひらく―― 新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業
Opening the Senses—Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs
エデュケーショナル・スタディズ 03
Educational Studies 03

京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
2022年3月18日（金）— 5月15日（日）

休館日：月曜日　※ただし5月2日（月）は開館
開館時間：9時30分—17時　※ただし金・土曜日は20時まで開館（入館は閉館の30分前まで）
主催：京都国立近代美術館　特別協力：河井寛次郎記念館

寛次郎さん、
なんで
人差し指の上に
玉を
乗せたんですか？

眼で聴き、耳で視る
Listening with Eyes and Looking with Ears

中村裕太が手さぐる河井寛次郎
NAKAMURA Yuta feels his way to KAWAI Kanjiro

河井寛次郎《三色打薬陶彫》、1962年、京都国立近代美術館蔵

眼で聴き、耳で視る

Listening with Eyes and Ears

中村裕太が手さぐる河井寛次郎

NAKAMURA Yuta feels his way to KAWAI Kanjiro

河井寛次郎《書「眼聴耳視」》1962年頃、河井寛次郎記念館蔵

河井寛次郎《三色打薬陶彫》
1962年、京都国立近代美術館蔵

エデュケーショナル・スタディズ03「眼で聴き、耳で視る 中村裕太が手さぐる河井寛次郎」では、河井寛次郎（1890–1966）が晩年に制作した《三色打薬陶彫》（1962年）に焦点を当てます。寛次郎はなぜ人差し指の上に玉を乗せたのでしょうか。この展示では、「暮しが仕事 仕事が暮し」という寛次郎の言葉（『いのちの窓』1948年）を手がかりに、寛次郎の暮しぶりに触れていくことで、その造形感覚を読み解いていきます。

寛次郎は自らがデザインした家具や愛用品に囲まれた空間で、トランジスタラジオを聴いていました。そして、機械製品、仏像、西洋絵画、建築、こどもの詩や薬品などの新聞記事を切り抜き日記に挟むといった暮しを営みながら、日々の仕事を行っていました。また「眼聴耳視」という寛次郎の言葉からは、身近な自然や機械製品のかたちを身体感覚によってとらえ、自身の中で溶け合わせ調和させながら自由な造形を生み出していった姿を想像することができます。

会場では、寛次郎が切り抜いた新聞記事をはじめ、安原理恵による河井寛次郎記念館の物品を触れて鑑賞した音声、それをもとにした中村裕太の手でふれる造形物を設えます。そうした空間のなかで「さわる」「きく」などの感覚を使って、寛次郎の作品づくりを新たな角度からひも解いていきます。

京都国立近代美術館では、「みる」ことを中心としてきた美術鑑賞のあり方を問い直し、「さわる」「きく」などの感覚を使うことで誰もが作品に親しみ、その新たな魅力を発見・共有していく「感覚をひらく」事業を行っています。2020年度からは作家（Artist）、視覚障害のある方（Blind）、学芸員（Curator）がそれぞれの専門性や感性を生かして協働し、所蔵作品の新たな鑑賞プログラムを開発する「ABCプロジェクト」に取り組んでいます。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館時間・休館日等は変更になる場合がございます。ご来館前に当館ウェブサイトなどで最新情報をご確認ください。
- 本展示では一部、手で触れて体験できる展示がございます。

〈河井邸 囲炉裏場〉
1960年代前半（本人生前）、
提供：河井寛次郎記念館

〈安原理恵の触察〈手すり〉〉撮影｜表恒匡

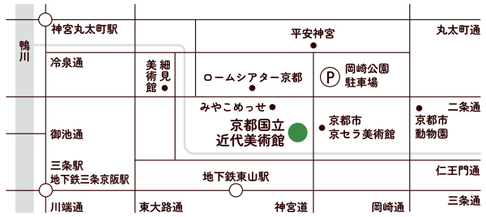
《6石トランジスタラジオ バナベット》1963年、個人蔵

観覧料

一般430円（220円） 大学生130円（70円）
＊（ ）内は20名以上の団体料金、夜間開館時の夜間割引料金
＊高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

交通案内

●京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分
●地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分



河井寛次郎 Kawai Kanjiro

1890年島根県安来市生まれ。東京高等工業学校窯業科を卒業後、1914年に京都市陶磁器試験場に入所。1920年に京都の鐘鋳町にあった窯を五代清水六兵衛から譲り受けて独立し、住居を構え終生そこで創作を行う（現在の河井寛次郎記念館）。1921年から高島屋（東京・大阪）で継続的に個展を開催。このとき当時高島屋東京店の宣伝部長であった川勝堅一氏と知り合う。1926年に民芸運動の始まりとなる『日本民藝美術館設立趣意書』を発表、富本憲吉、濱田庄司、柳宗悦とともに名を連ねる。戦時中は文筆活動に埋没し、戦後はやきものに加えて、用途にとらわれない不定形な造形や、手をモチーフにしたものや人物像、面などの木彫を制作した。京都国立近代美術館には、河井の友人であり支援者でもあった川勝堅一氏から寄贈された425点の作品が「川勝コレクション」として所蔵されている。

中村裕太 Nakamura Yuta

1983年東京生まれ、京都在住。2011年京都精華大学博士後期課程修了。博士（芸術）。京都精華大学芸術学部特任講師。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示・プロジェクトに「第20回シドニー・ビエンナーレ」（2016年）、「あいちトリエンナーレ」（2016年）、「柳まつり小柳まつり」（ギャラリー小柳、2017年）、「MAMリサーチ007：走泥社—現代陶芸のはじまりに」（森美術館、2019年）、「ツボ_ノ_ナカ_ハ_ナンダロナ？」（京都国立近代美術館、2020年）、「丸い柿、干した柿」（高松市美術館、2021年）、「万物資生｜中村裕太は、資生堂と　を調合する」（資生堂ギャラリー、2022年）。著書に『アウト・オブ・民藝』（共著、誠光社、2019年）。

ABCコレクション・データベースVol.2
河井寛次郎を眼で聴き、耳で視る
河井寛次郎の仕事をその暮しぶりからひも解いたウェブサイト。
www.momak.go.jp/senses/abc/kanjiro/

文化庁
令和3年度 文化庁
地域と共働した博物館創造活動支援事業

○式場［隆三郎］： 手を形どつたものが多いんだが、どうして手を始めたんだい。
●河井［寛次郎］： （…）指の先に丸をつけたのも別に意味はないんだが、作つてみてから自分で考えたね。これは油断できんぞ、油断すると手の上の玉が落ちるし、これは結局自分の阿弥陀如来だなと思つたな。阿弥陀さんはわれわれが寝ている時も、寝てない時も油断なく見つめていてくれるんだから、手の上の玉も同じでこれは油断できないぞ、とそういうことがわかつたな。それは自分に対する答だ。
○式場：手と丸なんか何の関係ない様なものだが、こうやつて出来たものを見ると、ちやんと納まつているね。良く日本人は本業と余技を分けて見たがるんだが、陶器をつくるのも河井だし、木彫をやるのも余技的なものでなく、本業の河井の一面だと思うんだが。
●河井：余技ではないな。仕事には本業だの余技だのなんかないんだ。自分がやつた仕事は全部が本業だよ。
○式場：木彫はこれからもやるんだろうね。
●河井：やるやる。もう身体の中に胎動しているものがあるので、これからも作つてみたいと思う。自分でも何が出来るかわからないが、とにかく身体の中にあるものを作り出したい。
（十二月二十六日夜
京都五条坂河井寛次郎邸にて）

「対談 河井寛次郎の木彫 河井寛次郎
式場隆三郎」『民藝』1954年2月号
（通巻五十号）26–30頁

お問合せ
京都国立近代美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL: 075-761-4111 FAX: 075-771-5792
https://www.momak.go.jp/senses